

【日 時】 令和4年12月5日（月）9時00分～11時30分

【会 場】 さいたま市立七里小学校 南校舎2階 研修室

【委 員】 12名出席 3名欠席

<議 事>

1 開会行事

(1) 校長あいさつ

2 授業参観

・子どもたちの元気な様子が伺えた。

3 学校運営の進捗状況について

(1) 学校の様子について（説明 校長）

① 学校生活と行事

② SDGs子どもフォーラム報告

③ 地域の行事

(2) 市教委委嘱研究発表会報告（説明 学校課題研究主任）

・研究発表会に参加させてもらった。3年生の授業と研究協議に参加したが、授業では互いに認め合うことが「みらいいね」という言葉で表現されていた。とてもよい言葉だと感じた。こうしたことはいじめをなくすことにもつながる。傾聴や相互理解といった姿勢にもつながる。子どもたちなりのSDGsを感じた。研究協議では先生方の真剣な姿を見た。このようにして子どもたちによりよく教えられるようにしていることが分かった。

(3) 全国学力・学習状況調査等の結果から（説明 校長）

(4) いじめ認知件数と心と生活のアンケートの結果（いじめ対策委員会）（説明 生徒指導主任）

・学校でいじめとして取り上げられ、表に出てくることはよいことである。以前ならこれほどいじめとして取り上げられることはなかったのではないか。こうして取り上げているということから、学校全体で絶対にいじめをなくすんだという姿勢を感じる。

・人間関係のトラブルを乗り越えていく力を身に付けていくことが大切だと感じる。いい子が多いが、いい子になりすぎてしまうことにも心配を感じる。

・設問3については不安な部分である。この設問3に該当する人数についてどのようにとらえているのか。また、どのようなことが原因になっているのか。

→多いかどうかということではないが、人数については重く受け止めている。毎回、該当者が0であってほしいとは思っているが、0にはならないだろうというスタンスで取り組んでいる。児童が正直に回答してくれることで相談もできる。回答は重く受け止めて対応している。

原因は様々だが、学習面の不安、人間関係がうまくいかない、自分に自信がもてない、などがある。

- ・設問3に該当した児童へのフォローはどのようになっているのか。
- 担任と面談をする。生徒指導主任、管理職も情報を共有しているので、継続的に該当の児童への声掛けをしている。また、教員全体で見守りをしている。
- 家庭へも連絡をし、連携して見守りをしている。
- ・家庭へ連絡しているとのことだが、とても大事なことである。
- ・設問3については、いずれ自殺にもつながりかねないという不安がある。このように学校で対応していくことはとても大事である。
- ・不登校についてはどうか。
- 教育相談主任が中心になり、校内委員会で報告し合い、対応している。
- 校内委員会だけでなく、2週間に1回のペースでケース会議を行い、全教員で常に状況を把握できるようにしている。担任は一生けん命、よくやっている。保護者ともよく連絡を取り、毎日登校できるようになっている児童もいる。

(5) 2学期の児童会による取組（説明 特別活動主任・後期児童会6年代表委員）

- ・説明にあった「あいさつソング」とはどういったものか。
- 委員長会議で児童から提案があり、作成することになった。具体的な内容については、次回の委員長会議で話し合うことになっている。

(6) 読書月間（11月）について（説明 学校図書館教育主任）

- ・読書月間の取組は全校で行ったのか。また、普段はどうか。
- 全学年で行った。普段の活動として、月曜日の朝の時間に朝読書を行っている。また、各学級週に1回図書室利用の日がある。休み時間にも読書をしている児童もいる。このように、普段から読書に親しむ時間を作っている。
- ・私は子どもの頃、読書が嫌いだった。でも、今、読書することで書く力が付くと感じている。いろいろな文章を読むことで表現力が付く。経験上、読書をしていないと文章を書くことができないと感じている。読書は大事であると感じている。
- ・読書をする人が減っているのではないかと感じているがどうだろうか。

(7) 全体を通して

- ・七里小はいろいろなことをよくやっていると感じた。本を読む大切さもわかった。設問3への対応は、将来に関係してくるので、大切である。
- ・児童会が活発であると感じた。先ほどの代表委員は原稿を見ずに発表している姿に感動した。素晴らしい。
- ・その日にあったことはその日に解決できるよう、関係の職員で情報を共有し、スピード感をもって取り組んでいる。

4 熟議 「笑顔で 強く たくましい子」の実現に向けて

- ・学校行事等、新型コロナウイルスによる制限が軽減されてきて、また、保護者ができる限り参加できるように工夫していただいて、学校に来られる機会が増えた。その中で、子どもたちが大きな声で、目を見て、明るくあいさつをできるようになってきていると感じている。また、学校全体が明るくなったと感じている。
 - ・授業が楽しそうだなと感じた。子どもは笑顔であいさつしてくれた。
 - ・持久走記録会の日に、おやじの会であいさつ運動を行ったが、あいさつをする子が増えていると感じた。こちらからあいさつをすると、ちゃんとあいさつが返ってくる。
 - ・朝、交通指導員として立哨指導をしていると、子どもたちがあいさつをしてくれる。登校を見守る校長先生も楽しく子どもたちとあいさつを交わしている。以前はあいさつしてくれなかった子が毎朝あいさつしてくれるようになり、うれしく感じている。
 - ・登下校の送り迎えをしていると、児童が普通にあいさつをしてくれる。
 - ・学校の雰囲気が明るくなったと感じている。
 - ・七里小コミュニティ・スクールのキャッチフレーズである「あいさつは家庭から」をいろいろな文書に掲載していきたいと感じる。「笑顔で 強く たくましい子」のたくましいは、身体的なたくましさか、精神的なたくましさか。子どもを見ていると、粘り強さに欠けると感じている。とりあえず、子どもにさせてみて、それでもできなければ親が手を貸す。何でもかんでも最初から親が手を出すのはどうかと思っている。
 - ・昔は各家庭に子どもの数が多く、親が手をかけられない状況があった。今は、すぐに手をかけられる状況にはあるが、親が少し我慢する、子どもに頑張らせることも大切であると感じる。その程度にもよるが、こうしたことが我慢強さをはぐくむことにつながるのではないか。
 - ・学校は様々な情報を発信してくれている。笑顔も増えた。強くたくましくのために、我慢強さを身に付けられるようにしていくことは大切である。
 - ・自然の教室や修学旅行では、思ったことを言えたり、積極的に取り組めたりと、児童の変化がみられる。いろいろなことをさせることが大切であると感じている。
 - ・児童会が活発だが、それ以外の児童が活躍する場はないのか。1分間スピーチなど、みんなに向けて自分のことを話す機会があるとよい。苦手な児童にはサポートしながらみんなが取り組めるとよい。
 - ・わかっていても発言できない児童がいる。手を挙げられることがまずは大切である。これができるようになると、自己表現にもつながっていくと考えられる。
 - ・いじめに対する心の強さを身に付けてほしい。どうすればそうした力を付けられるのか、先生方がどのように力を引き出していか。
- まずは安心感を与えられることが大切だと考えている。担任と児童の信頼関係を築くことが大切である。
- ・仕事でサッカーを教えている。子どもと一緒にサッカーをすると、以前は絶対に大人を負かしてやろうと向かってくる子が多かった。今は、すぐに「大人げない」と言い出す子が多くなっている。初めからあきらめているのか、ハングリーさが足りないように感じる。バランスが大切だが、個が育ってこそ、組織としての力も高まっていく。「みんな仲よく」と「たくましく」

をバランスよく育てていけるとよい。

- ・体力を付けていくことが大切だと感じる。持久力が高まり、粘り強さも身に付くのではないかな。外遊びが大切であると考えている。
- ・PTAバザーの際に久しぶりに七里小の児童に会った。以前よりあいさつをよくしてくれる。成長を感じる。
- ・行事などを通して、児童に仕事をさせることが大切ではないかと考えている。

(その他)

- ・マスク着用について、状況に応じて適宜外すなど、指導していきたい。併せて、給食の黙食についても文部科学省から通知が出ている。今後の動きを踏まえて対応していきたい。

5 諸連絡

6 閉会